

～安定した収穫を目指して～

大野 晃 さん

大野 たまえ さん(久万高原町)

(晃さん) 1969年生まれ

松山市農協の久万高原ピーマン部会直瀬支部 副部長

(たまえさん) 1972年生まれ



☆経営概況☆

栽培品目 ピーマン(京波) 15a、大根5 a、キャベツ5 a、水稻 42a

労働力 夫婦と晃さんの母の3人

☆ここがポイント☆

■就農の経緯

父から継承して農業を始め、2020年で13年目になります。もともとはサラリーマンとして働いており、農業をしようと思っていたわけではありませんでした。しかし、父が亡くなったことがきっかけで、畑を荒らしてはいけないという思いから就農を決意しました。サラリーマンのほうが生活は安定していると思いますが、四季の移ろいを感じながら仕事ができるのが農業の魅力だと感じています。

■経営の特徴

ピーマン栽培では、前年量を下回らないように収穫することを目標にしています。そのため土づくりにも取り組み、自分の水田の畔に生えたカヤと堆肥約800kgを畑にすき込んでいます。農協の指針を守り、しっかり管理をすることが大事です。植物の様子を見ながら管理をしないと、後々影響が出てくるため、時期や状態に合った世話をすることが収量の確保に重要と考えています。

ほ場が家に近いため管理がしやすく、父の代から約30年間は、場所を変えていませんが連作障害も出ていません。ピーマンは特に水が必要ですが、水があまりない地域なので頻繁なかん水は難しく、畑の土壌水分に頼っているのが現状です。かん水に使える水が確保できれば日射制御型灌水装置を導入したいと考えています。また、近年の気候変動で栽培環境は厳しくなっていますが、一方で価格は安定しており、ピーマンは収穫物も軽くて長く続けやすい品目だと思います。

大根とキャベツは重いため、以前はたくさんいた生産者もずいぶん減ってしまいました。トマトやピーマンに比べて収入も上がりにくいのですが、収入の中継ぎとすることや畑を空けないようにすることを目的に栽培しています。

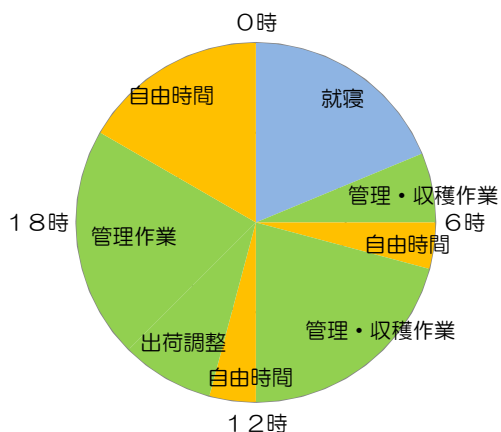


収穫作業



畑にカヤをすき込む

【一日のライフスタイル（一例）】



【普段の生活について】

夏場と冬場で生活のリズムが異なり、夏場は4:30に起床して20:00ごろまで仕事をしますが、冬場は7:00に起床し、仕事は16:00ごろまでで終わります。

車が好きなので、時間のある時は車いじりや洗車をする事が多いです。冬場は日曜日を休みにし、夏場にできなかった田畑や家の作業、ガソリンスタンドでのアルバイトなどを行っています。妻には農作業ではなく、家事を主にしてもらい、**休める時期にゆっくり**してもらっています。子供が大きくなったので、今後は少しゆとりができるかも…と思っています。

【一週間のライフスタイル（一例）】

月	火	水	木	金	土	日
【繁忙期】	← 収穫・出荷・管理作業 →					
【農閑期】	← 管理作業等 →					→ 休日 ←



部会の旅行で訪れた東京と小豆島



お正月用の干し柿づくり

☆これからの夢や目指すもの☆

今後年齢を重ねていく上で、これ以上の面積拡大は難しいため、**現状維持を目標**としています。現在の7~8割ほどに**本数を減らして1本あたりの収量を増やしたい**と考えており、どうすればできるのか思案しています。

また、私と同じ地区にも定年後などに**ピーマンを栽培する人を増やしたい**ので、**興味のある人を誘い、共に頑張りたいです。**

☆メッセージ☆

農業は自然を満喫しながら仕事ができ、四季を楽しむこともできます。ピーマンは新規就農者も増えてきて、少しの面積からでも始められます。**ピーマン部会もサポートしてくれるので、ぜひ挑戦してほしいです！**